

# はじめに

集団で治療する透析現場では、  
インフルエンザなどの院内感染の危険性は高い。

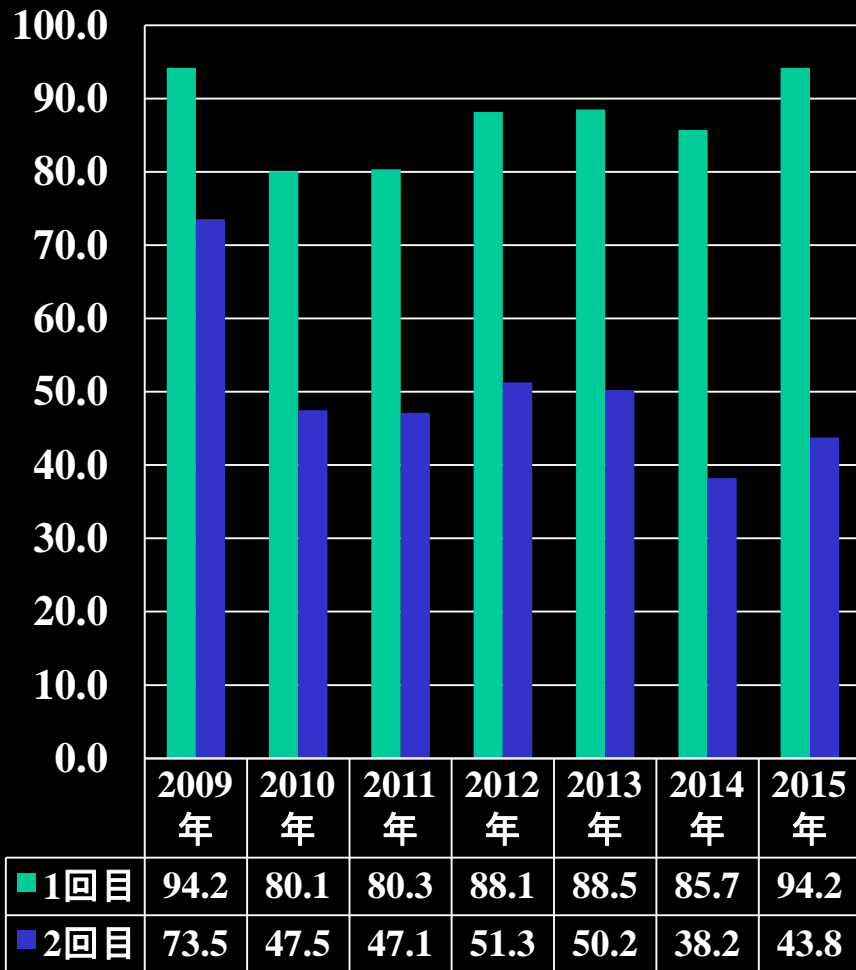
6年前より当診療所でも対策を実行してきており、  
この結果について報告する。

## 方法

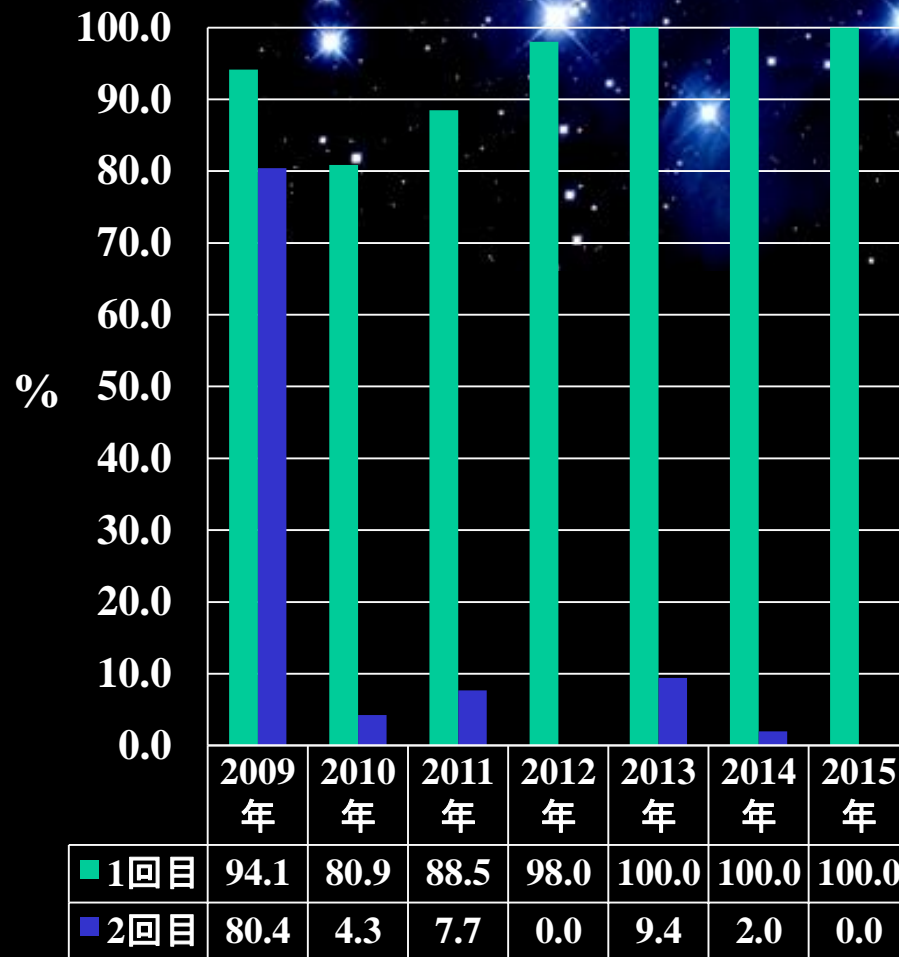
過去6年間の、患者と職員に関してインフルエンザ  
ワクチンの接種状況を調査した。

また、シーズン中の発熱者に対し、  
送迎バスに乗らない指導や、透析室入室前に検査を  
実施しており、これらに基づくインフルエンザ発症率  
を調べた。

# インフルエンザワクチン接種率

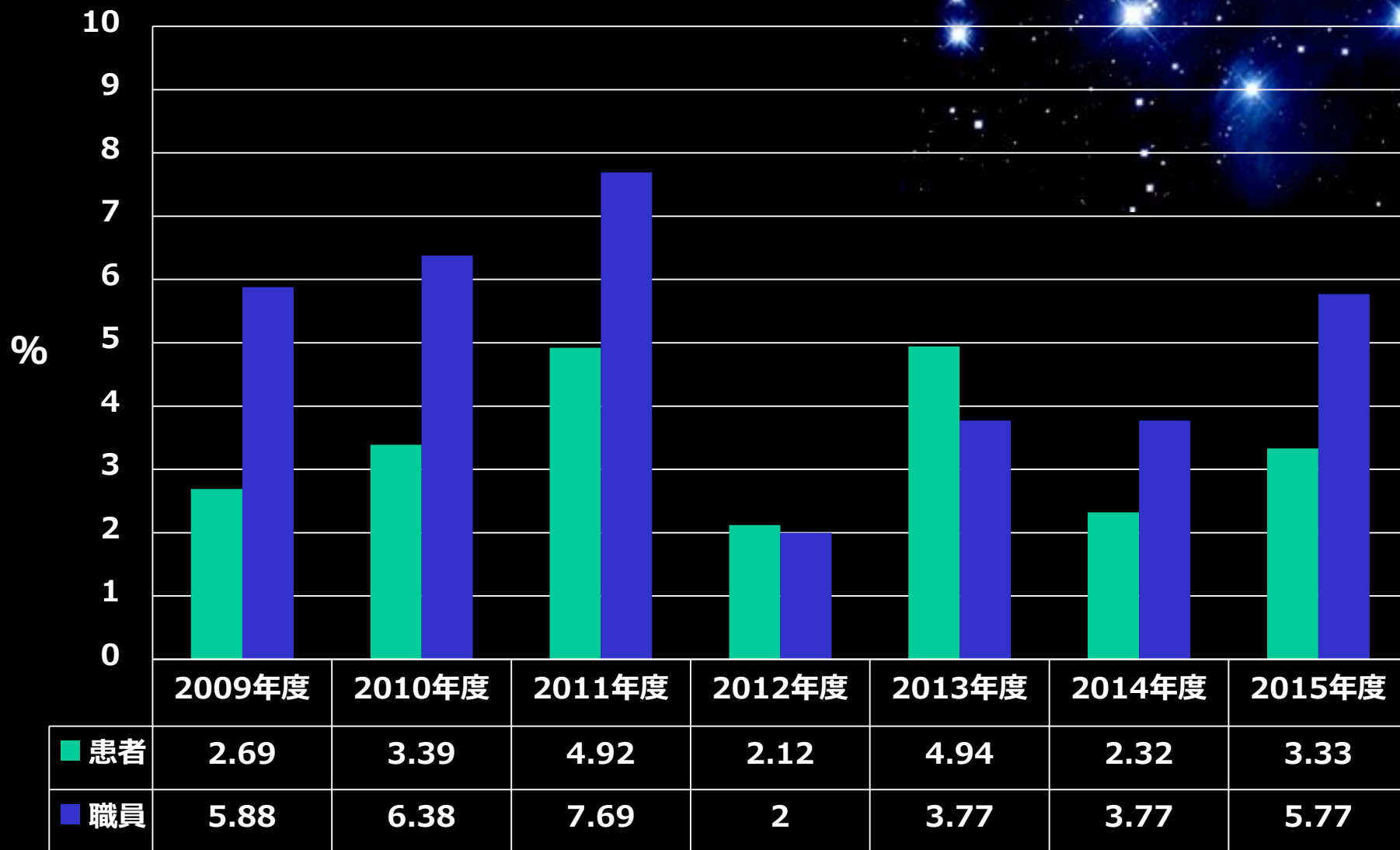


患者

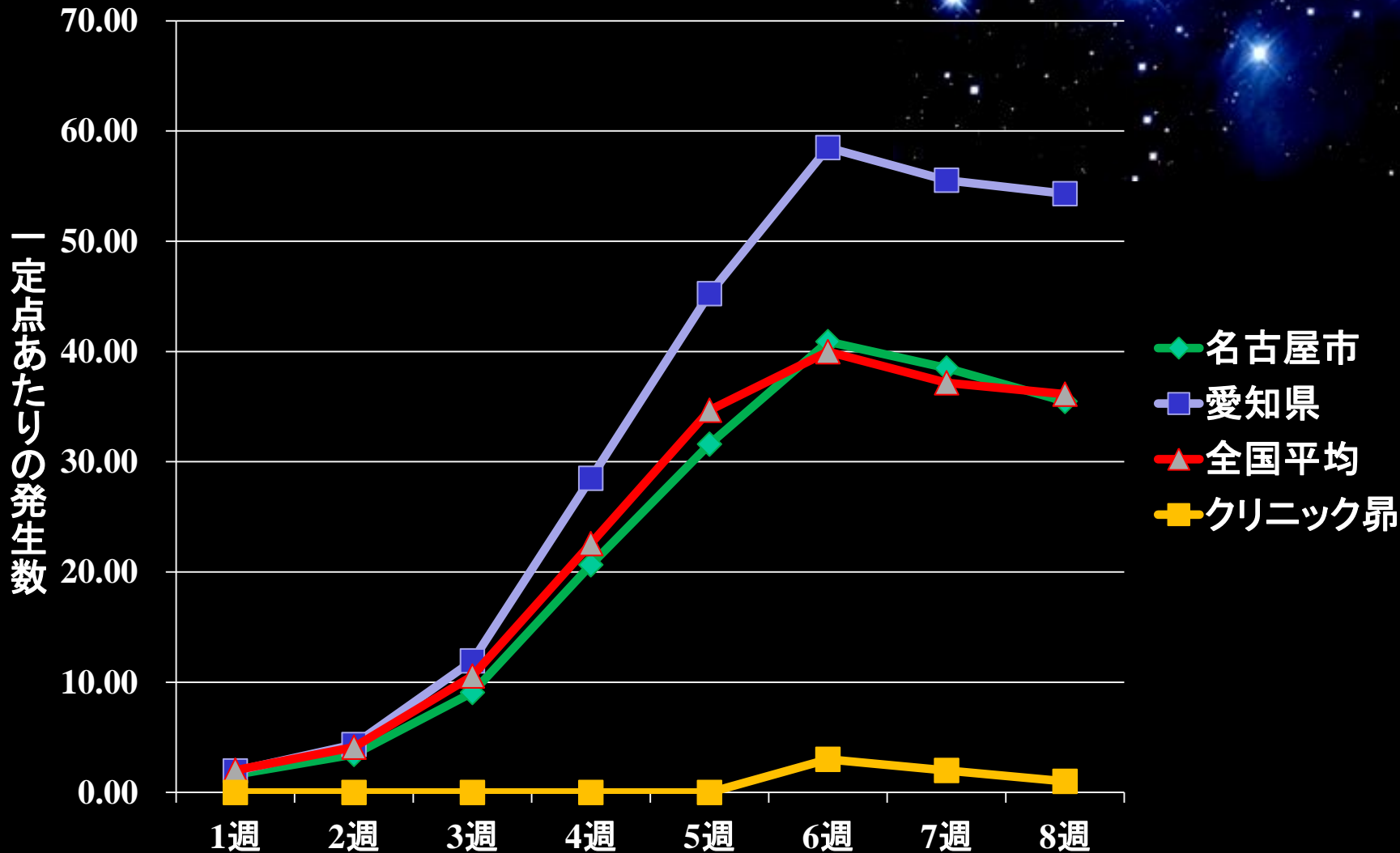


職員

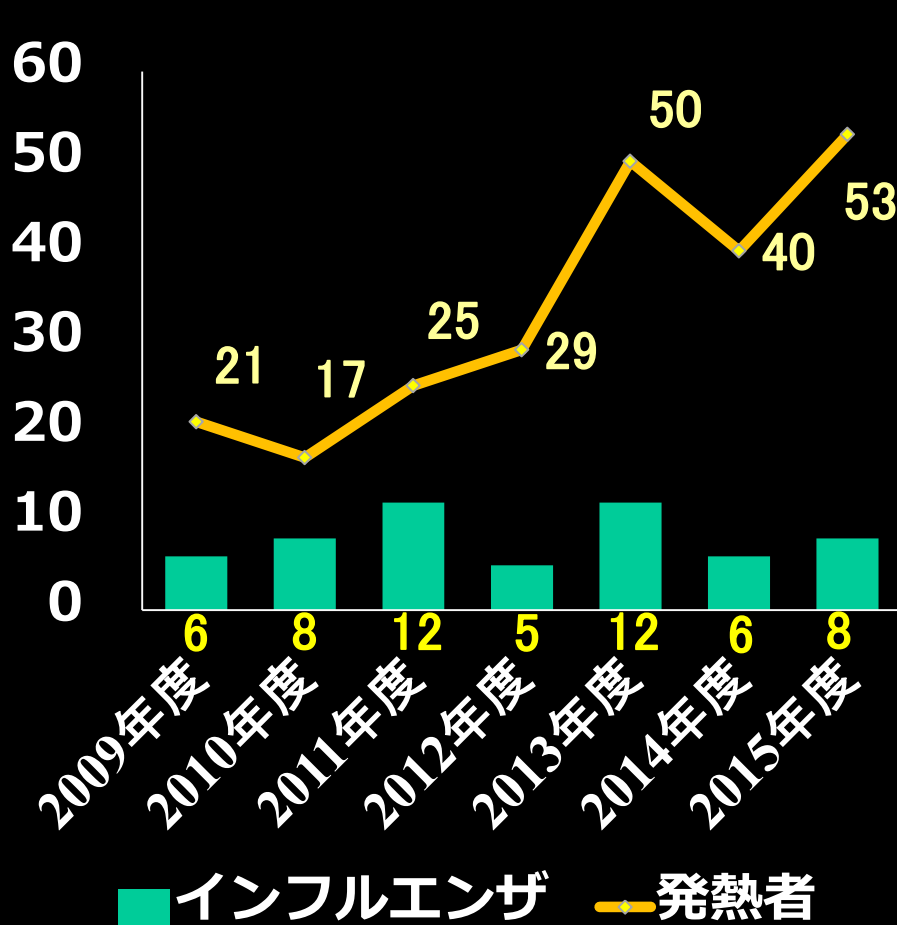
# インフルエンザ発生率



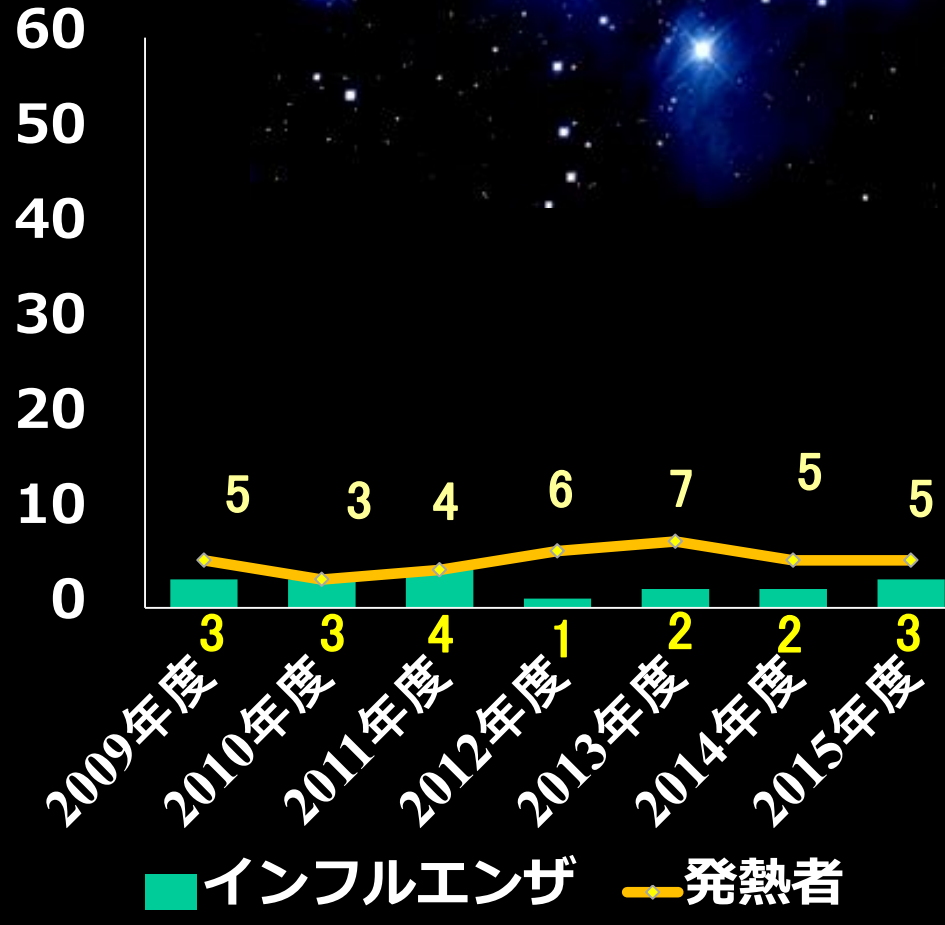
# インフルエンザ発生数の比較 (2016年1月～3月)



# 発熱者とインフルエンザ

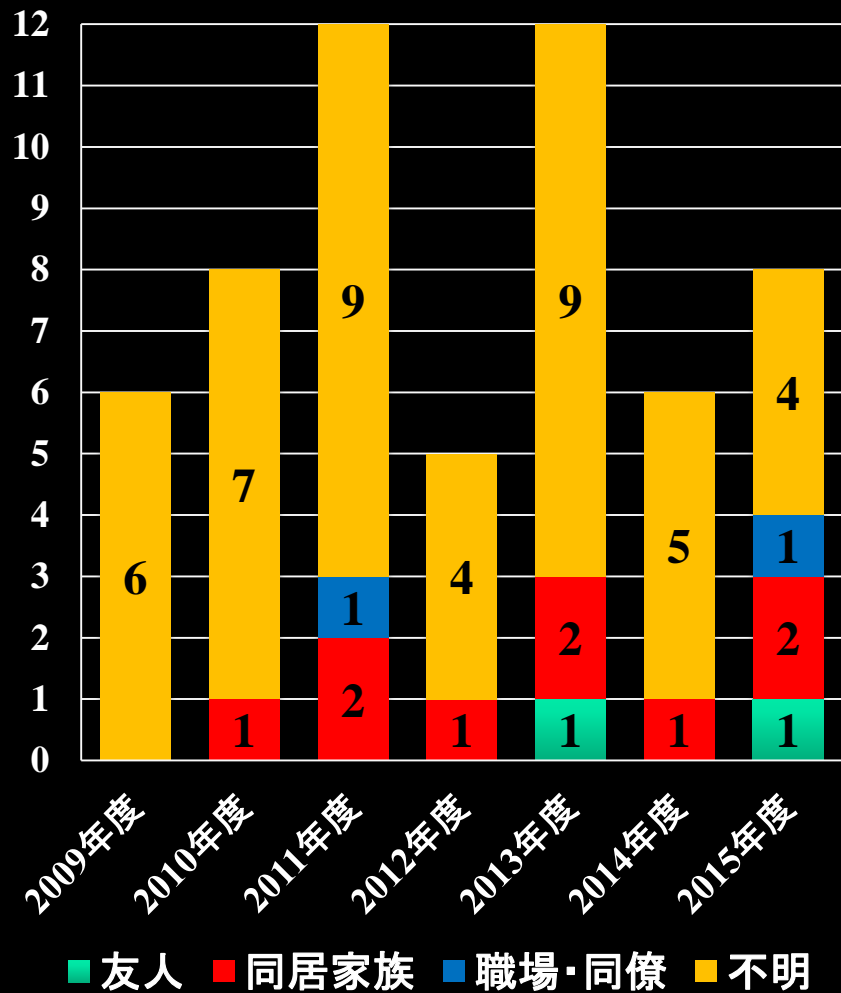


患者

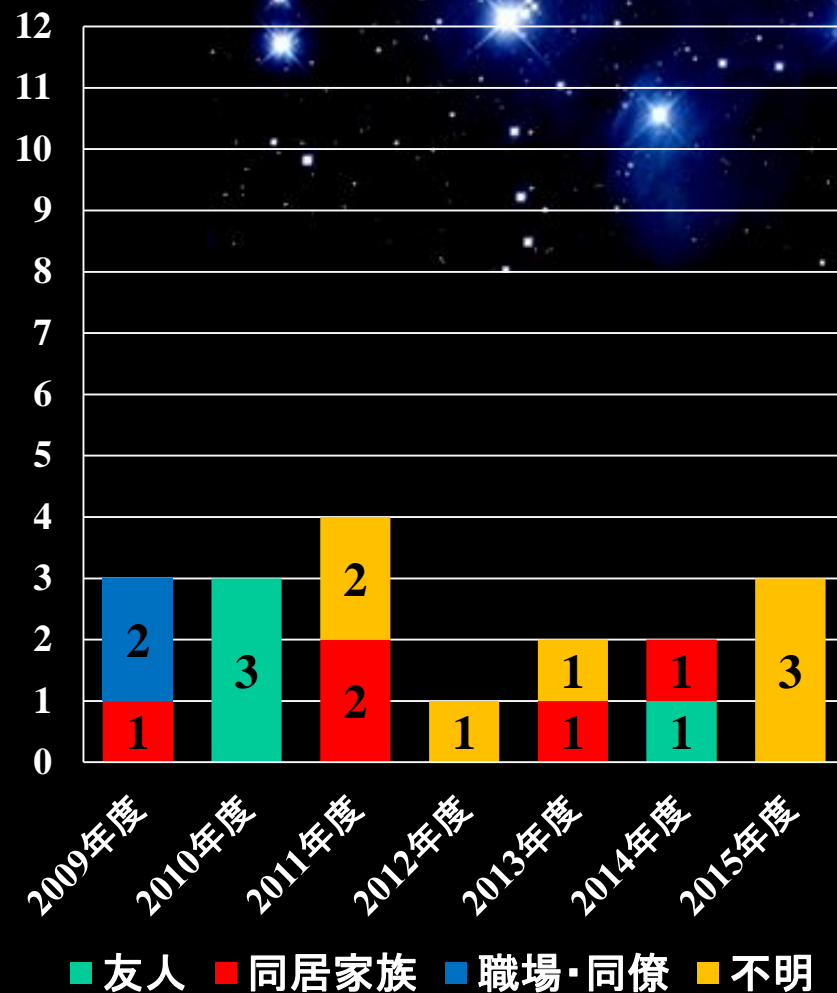


職員

# インフルエンザ発生者の感染源

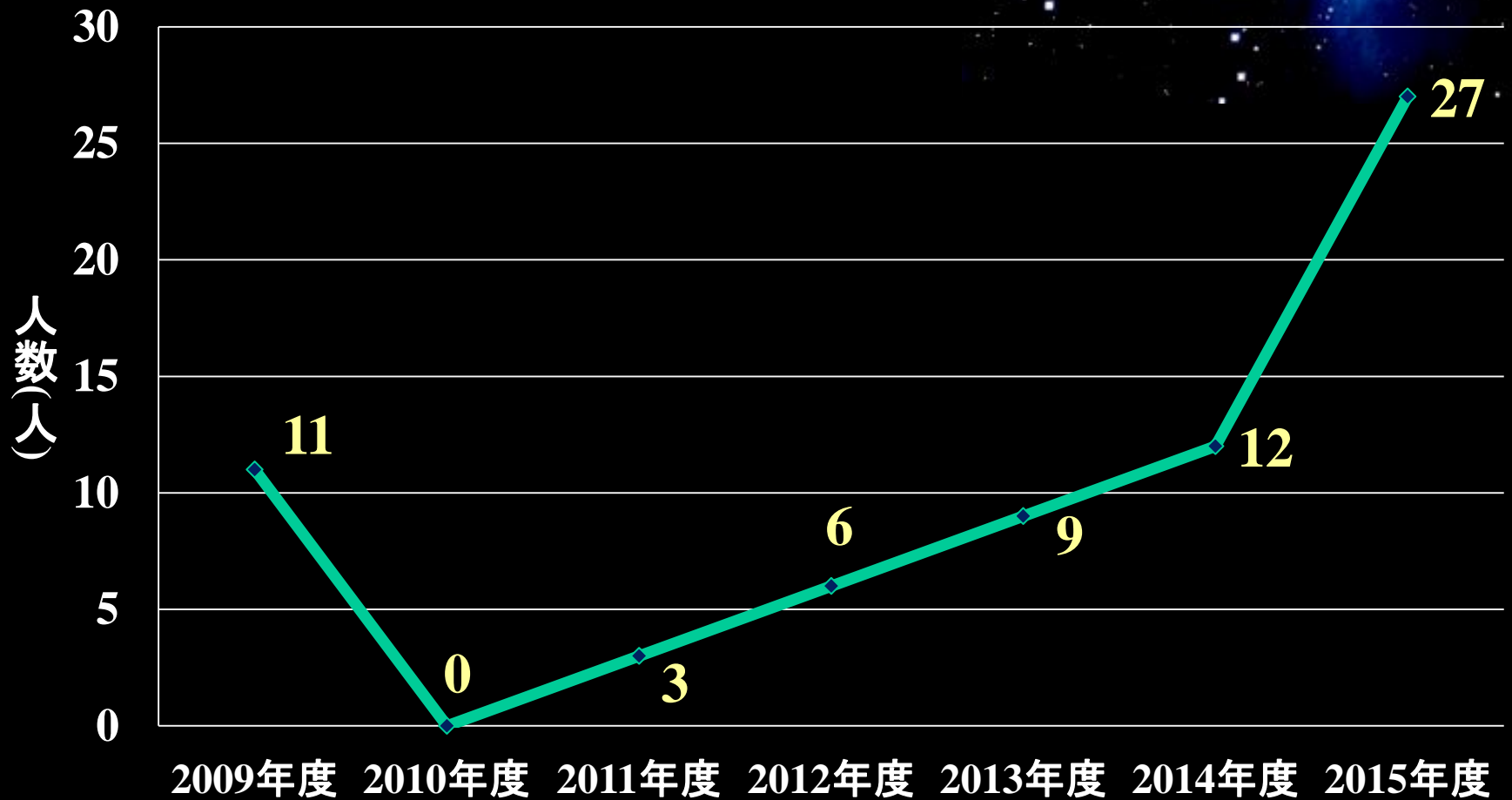


患者



職員

# 予防投与



# 感染対策（送迎車）

送迎車を利用する皆様へ

胃腸炎・風邪・インフルエンザ流行の季節です。  
感染予防の為、マスクの着用をお願いいたします。  
個人衛生に気をつけましょう。

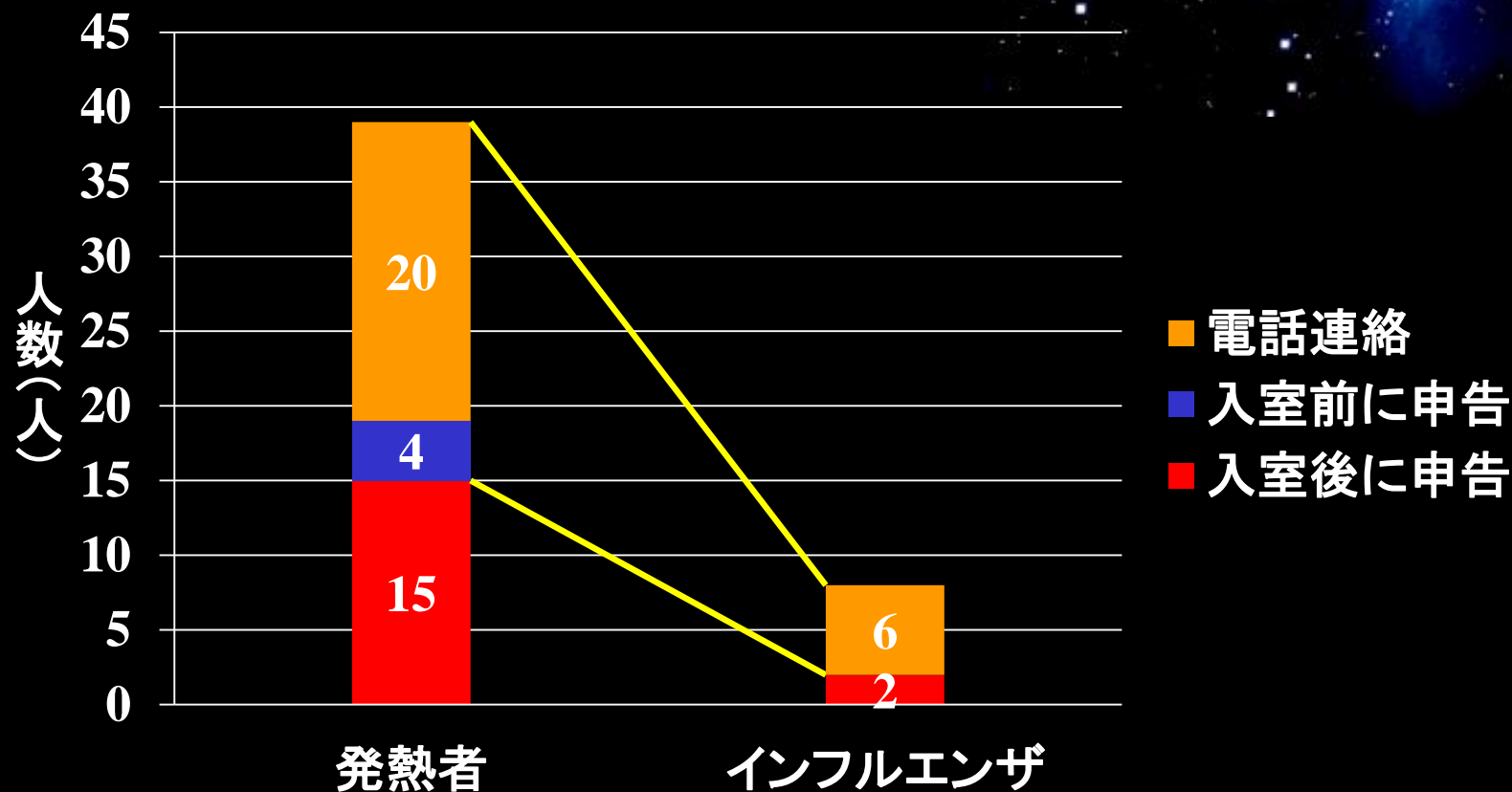
37.5℃以上の熱がある方は、送迎車を利用せず  
増子クリニック 昴までお電話下さい。

皆様のご協力をお願い申し上げます。





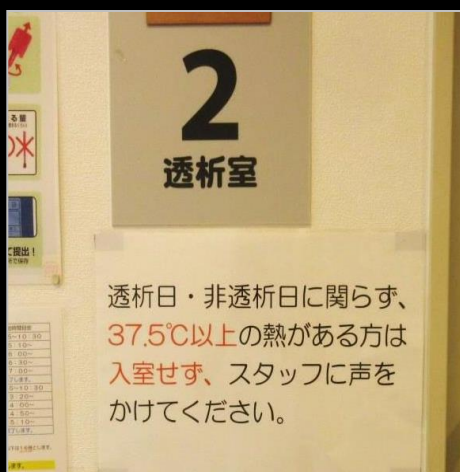
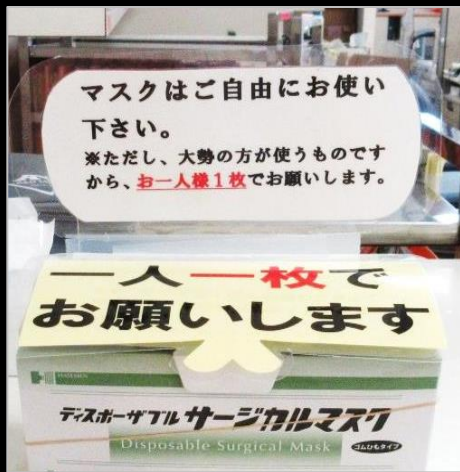
# 発熱者より事前申告の有無 (2015年度のみ調査)



# 感染対策

## (透析室出入口)

## (隔離ベッド)



# 感染対策（職員）

## スタッフ 医師 各位

原則は、発熱者は、インフルエンザでないとはっきりするまでは、隔離です。⇩  
発熱者は、前もって連絡をしてもらい、スタッフの手のすいた時間に（朝なら10時頃）来院して頂き、直接診察室にて検査を受けます。⇩

医師がすぐ手の空かない時は、スタッフの判断で検査を行いますが、必ず結果を医師にみせて、最終判断を受けてください。⇩

発熱よりの時間が短い時は（24時間くらい）陰性の事があるので、陰性でも必ず1回目は隔離します。⇩

1回目陰性者について、2回目の隔離と、タミフル投与については、その時の当番医師に、臨床症状、周囲の感染状況、体温などから総合的に判断して頂きます。インフルエンザが強く疑われれば、インフルエンザ（AかB）と病名を付ければ、タミフルは保険で出せます。⇩

2回目の時に再度インフルエンザの検査を施行してもいいです。⇩

以上の事は、患者さんだけでなく、スタッフ自身にも当てはまります。⇩  
とくに、患者さんへの感染を防ぐために、調子の悪いスタッフは、積極的に申し出てください。また、入社前に連絡し、決して更衣室やセンターに勝手に入入りしてはいけません。来院したら、必ず診察室に入って、内線電話で、ほかのスタッフに連絡して下さい。遠方の人や週休の人は、近医での受診をして下さい。⇩

何よりも、出来るだけ人込みを避け、手洗い、マスク、うがい、休養、栄養が大切ですのでお気を付け下さい。⇩

# 系列病院の集団感染

1/26(火) 1/27(水) 1/28(木)



第1HD室アサ  
第1HD室  
第1HD室アサ 第1HD室アサ (4階に入院中) 第1HD室



第1HD室アサ  
第1HD室ヒル 第1HD室ヒル 第1HD室



第3HD室アサ 4階病棟



第2HD室 3階病棟 4階病棟

1/29(金)



第1HD室アサ 第1HD室ヒル 第1HD室ヒル



第1HD室ヒル 第1HD室ヒル 第1HD室ヒル



第1HD室ヒル



第3HD室

1/30(土)1/31(日) 2/1(月) 2/2(火) 2/4(木) 2/6(土)



第1HD室アサ



第1HD室アサ 第1HD室アサ



第1HD室アサ  
第1HD室アサ (3階に入院中)



第1HD室アサ



第1HD室アサ



第3HD室ヒル 第3HD室アサ (4階に入院中) 第3HD室アサ (4階に入院中)



第2HD室 リハビリ室



第3HD室ヒル



第2HD室ヨル



第2HD室ヨル

# 結果

ワクチン接種率は、2009年には患者94.2%  
職員94.1%であったが、2015年には、  
それぞれ94.2%、100%となった。

また、発熱者数は最多であった2015年シーズン  
では患者53人、職員5人で、そのうち  
インフルエンザ発症は、それぞれ8人（15%）  
3人（60%）であった。

# 考察

- ① ワクチン接種、マスクの着用、手洗いは対策の基本であるが、シーズン中の院内感染防止には、発熱者からの事前申告と透析室入室前での対応の徹底の必要。
- ② 送迎車内での感染対応。
- ③ 集団感染は職員が関与している可能性が大きい。シーズン直前から感染源とならないためのマスク着用が重要。